

水都大阪アカデミア

水都大阪の街を流れる河川 環境調査

阪南大学 国際学部

長谷川ゼミ

京極稟

背景

安土桃山～江戸時代



豊臣秀吉の堀川開削事業により「水の都」としてて繁栄。「天下の台所」を支える水運の要。

戦後～高度経済成長期



人と環境のバランスの崩壊。生活・工業排水が自浄能力を超え、深刻な都市汚染が発生。

21世紀～現在



水都大阪再生の取り組み。失われた「美しい川」を取り戻すための再生プロジェクトが始動。

日本全国に広がる「水と緑」の再評価



水辺を都市の資産とする動きは全国に広がっている

動機と疑問：数値上の「きれい」は、感覚的な「快適」か？

研究の動機

市民が川に親しみを持てる空間づくりへの示唆を得る。



疑問

「大阪の河川水質が昔と比べて良くなっている」ことは周知の事実。

しかし、近づいた時の「におい」は？ 見えない不快感を検証する。



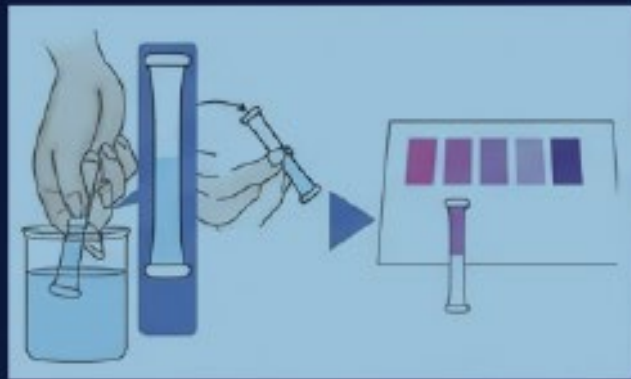
調査対象：大阪の都心を巡る「水の回廊」

大阪ふれあいの水辺



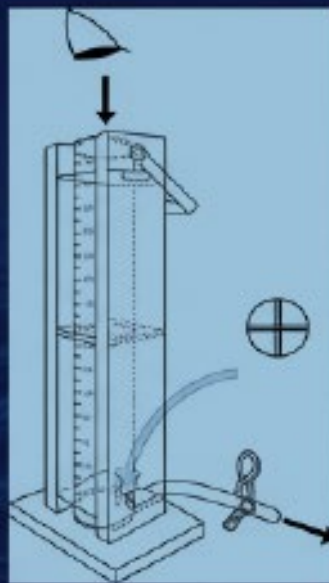
調査方法

COD値



有機物の量を測定。数値が小さいほど水質が良い

透視度



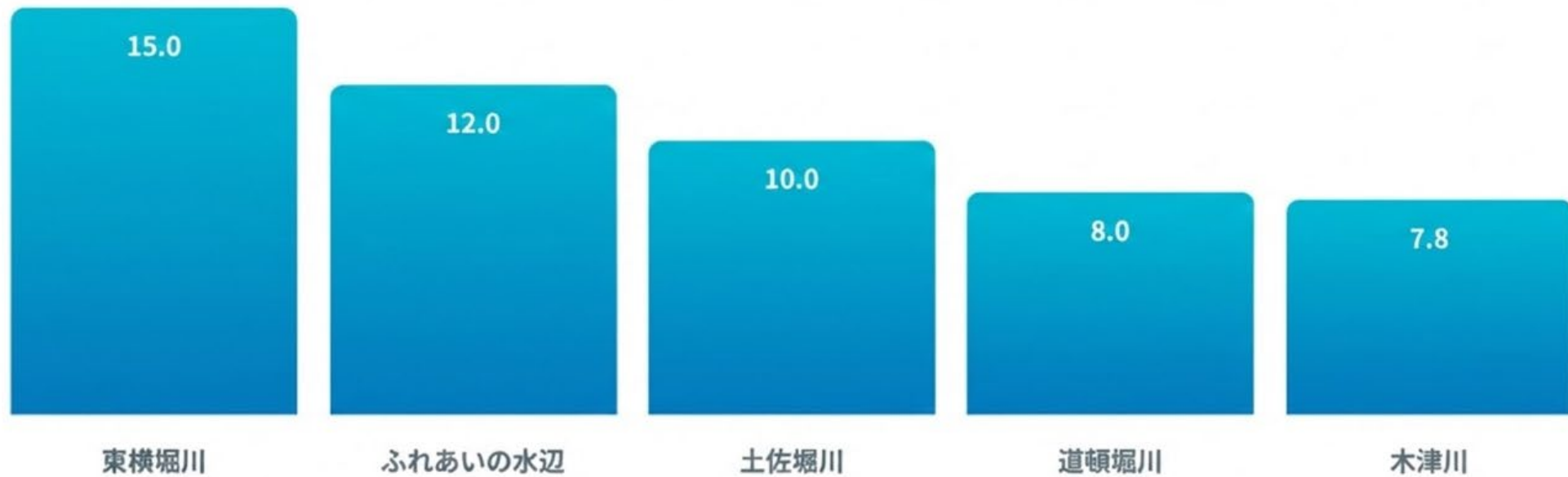
水の透明さを測定。数値が高いほど水が綺麗

臭気



ニオイセンサーPOLFAを使用し、数値を記録

2025年度 COD値



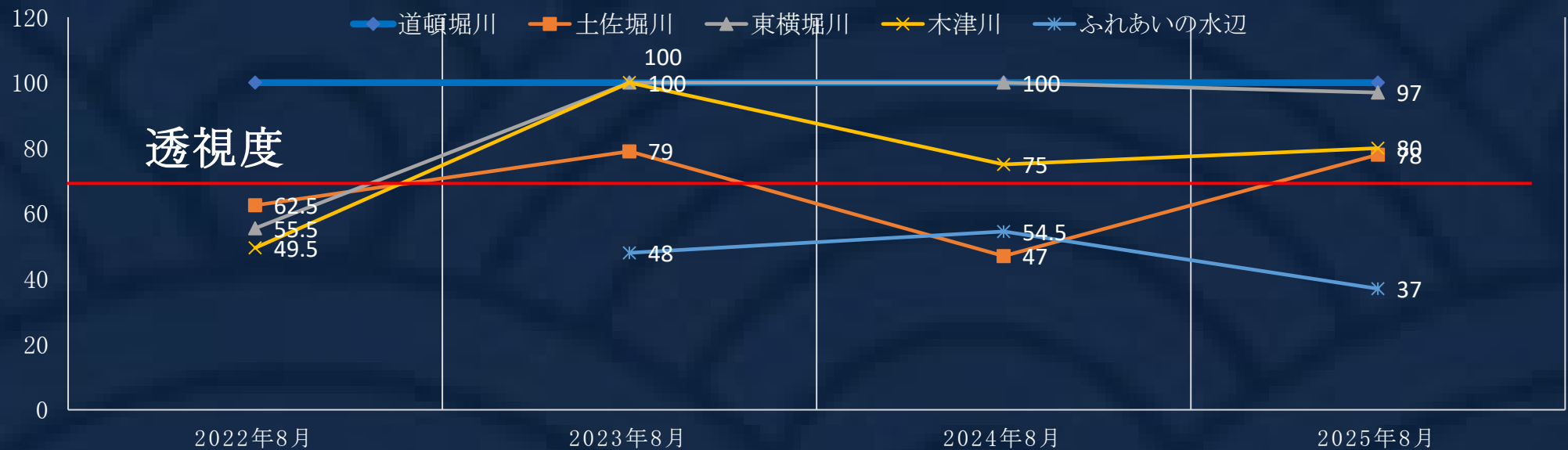
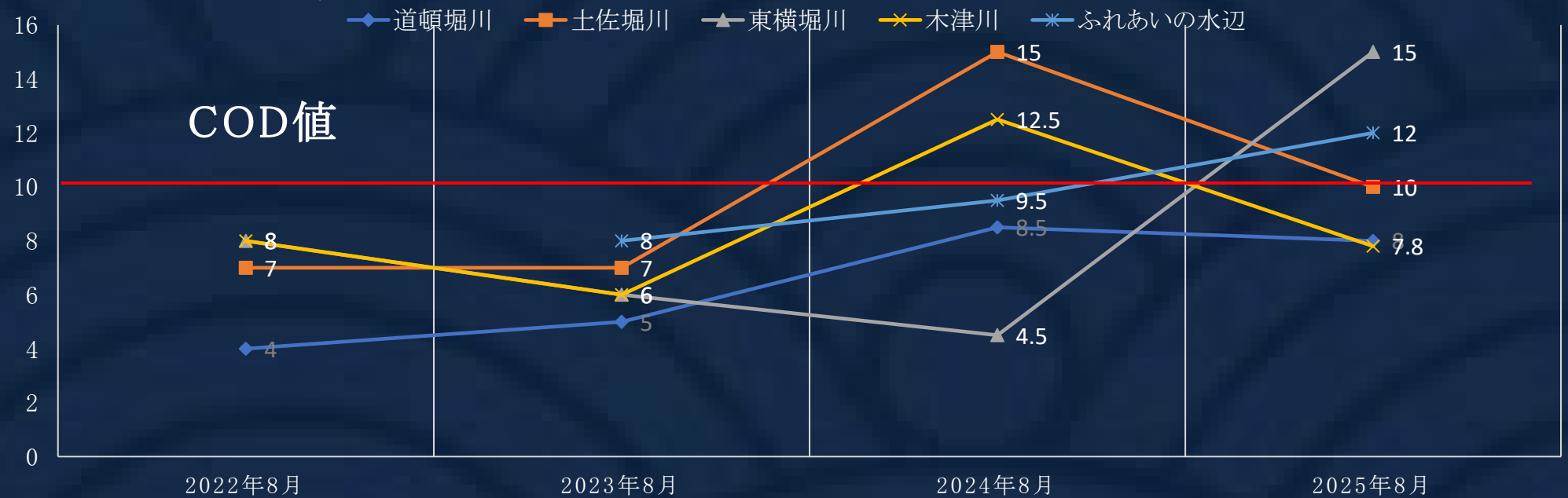
2025年度 透視度



2025年度 臭気



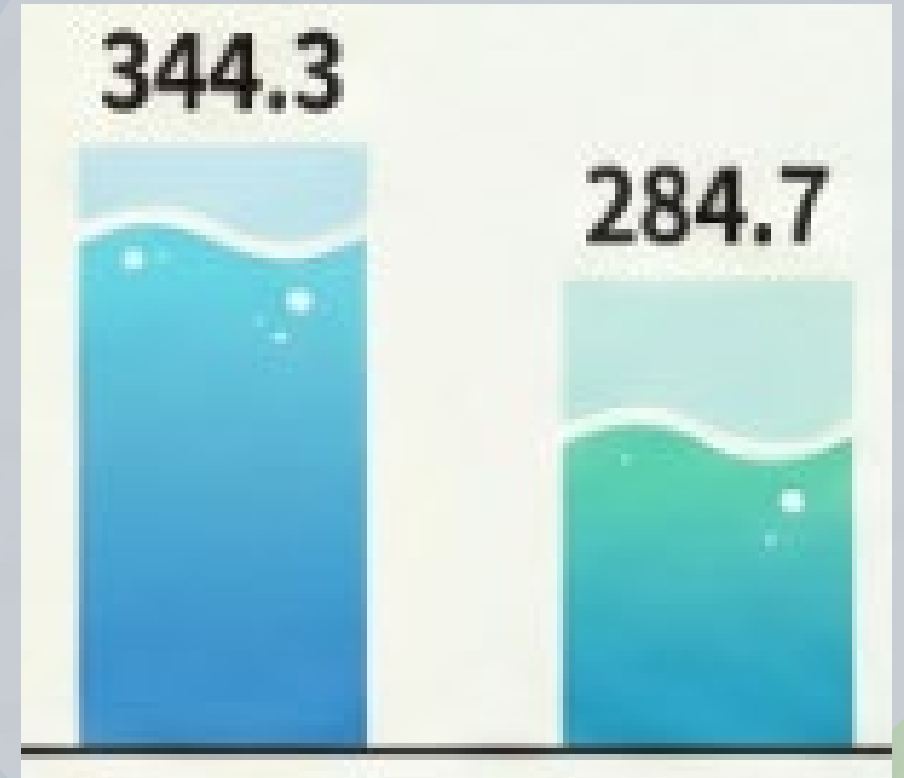
時系列 (COD値, 透視度)



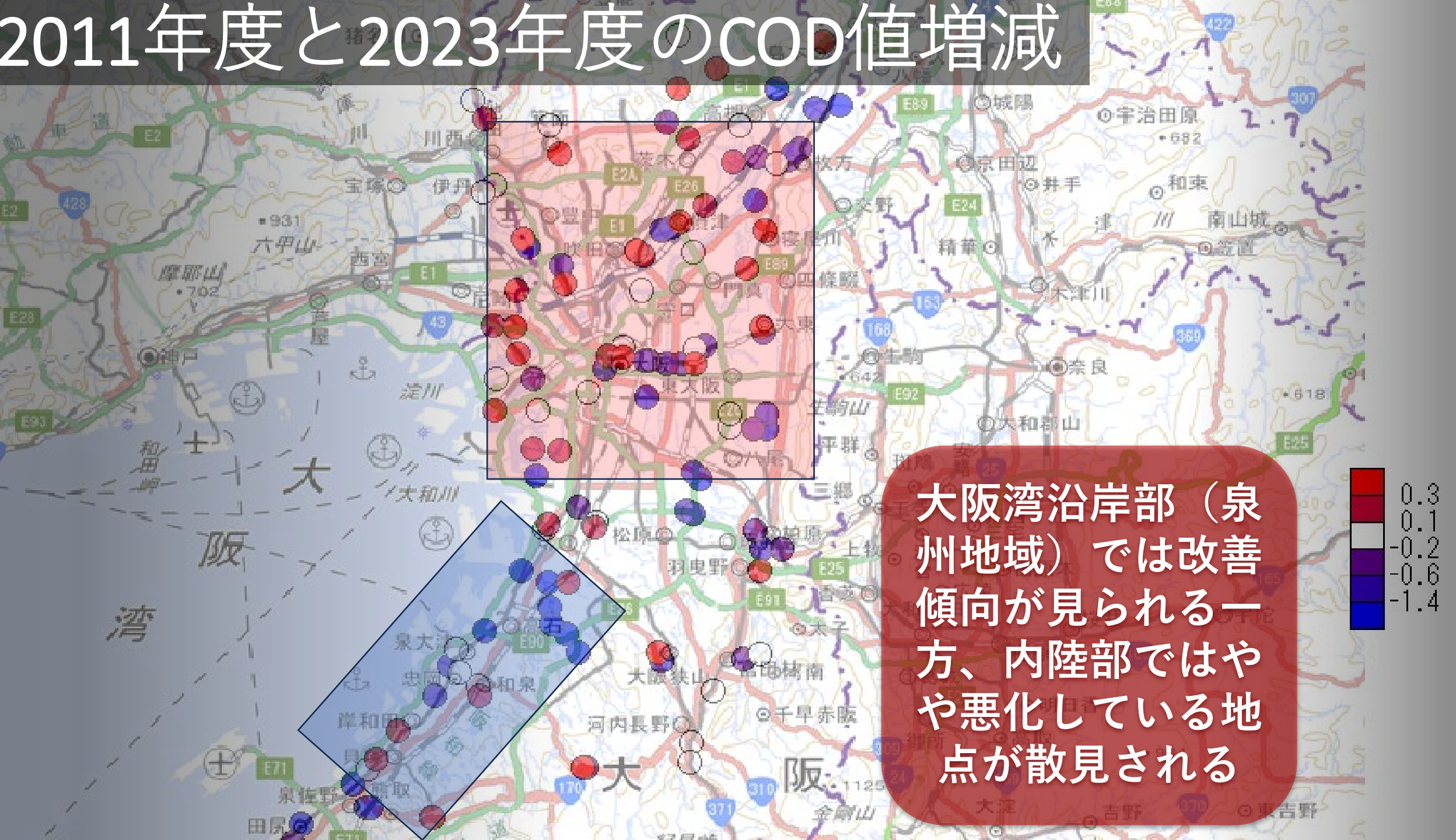
時系列（臭気）

ふれあいの水辺で臭気が大幅に改善

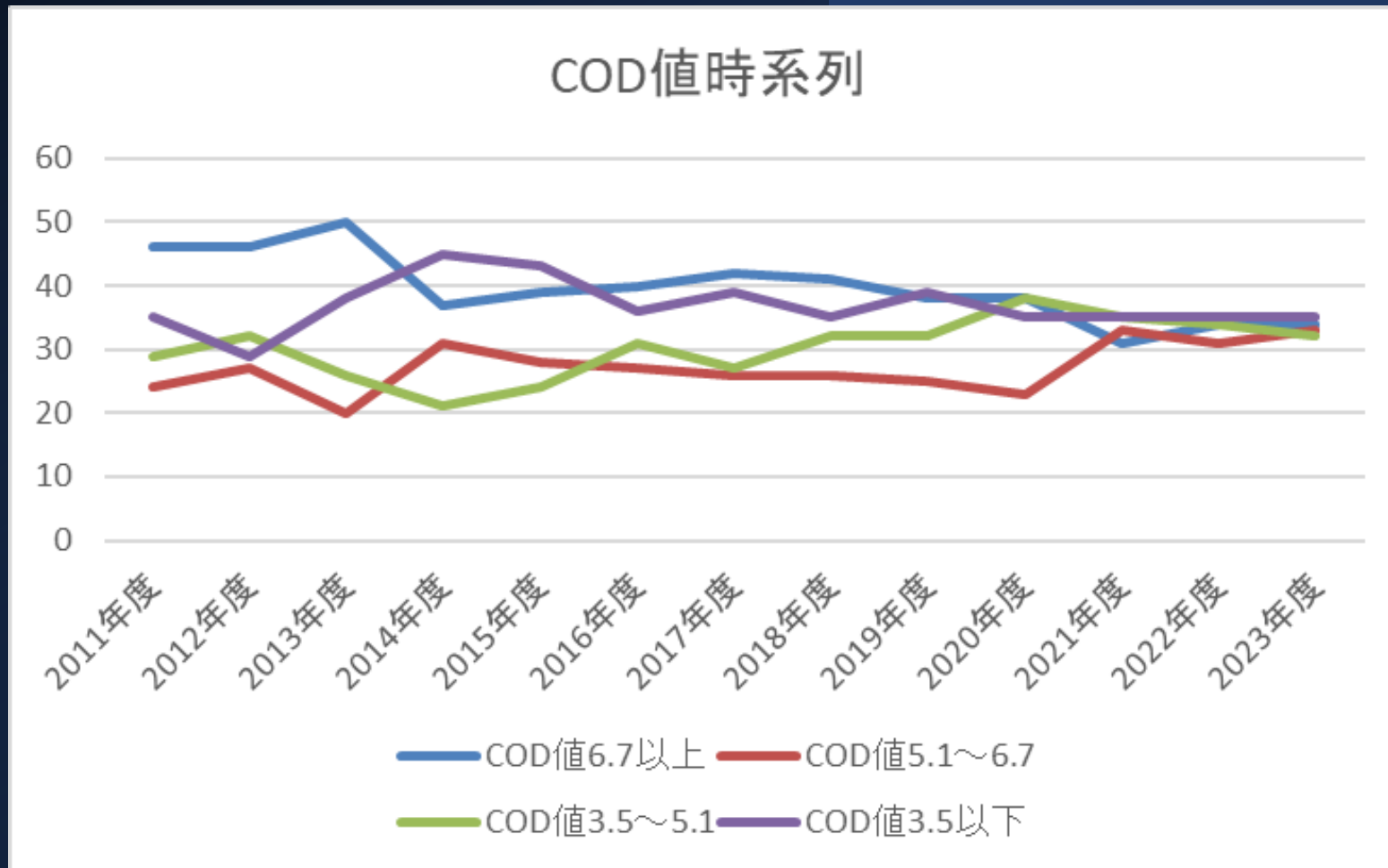
2025年の平均値は284.7となり、前年の344.3から大きく低下しました。



2011年度と2023年度のCOD値増減



COD値 時系列推移



COD値6.7以上の地点数は減少傾向